

はじめに

桜新町アーバンクリニックは東京都世田谷区の在宅支援診療所であり、在宅患者500名に加え、併設する訪問看護ステーションや看護小規模多機能型居宅介護事業所で140名の利用者を支える医療・介護複合施設である。

電力を必要とする医療デバイスの使用や災害リスク地域に居住する患者の存在から、平時より災害対策と業務継続計画（BCP）の策定が重要とされてきた。当院では6年前より災害対策チームを設立し、BCP・防災マニュアルの作成や訓練を通じ、災害時にも診療を継続できる体制構築に取り組んできた。

活動・方法

巨大地震発生時には、まず職員の安否確認が最重要事項であり、全事業所のBCP発動判断にも直結する。

当院では、Google Apps Script（GAS）を用いて気象庁の震度速報をトリガーに自動で安否確認フォームを全職員に送信する仕組みを構築した。（Fig.1）

”全国において震度6以上”の地震が発生した際に、気象庁の震度速報データを自動取得し、全職員が参加するGoogleチャット及びGmail宛に安否確認の連絡を自動送信する。（Fig.2）

統一フォームで収集された情報は自動集計され、事業所全体での安否状況と業務継続可否の判断材料としてリアルタイムに共有される。回答率は15分ごとに増していった。（Fig.3）

Fig.1



Googleフォームを用い、回答はスプレッドシートに即時反映。職員は訪問中・夜間・休日などのいかなるタイミングでも、スマートフォンからワンタップで回答できる。

Fig.2

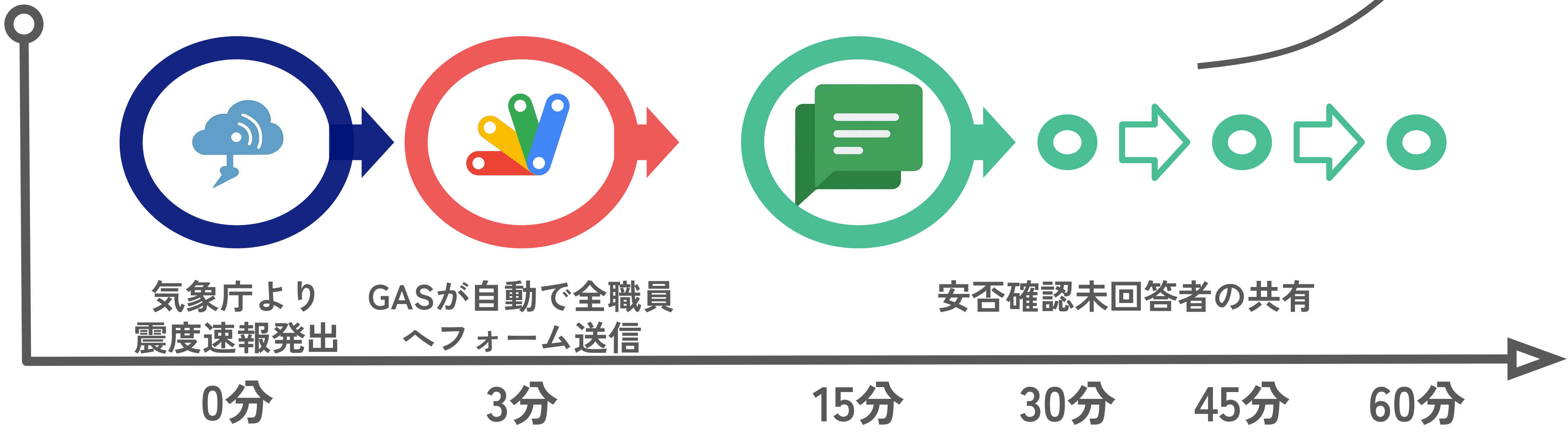
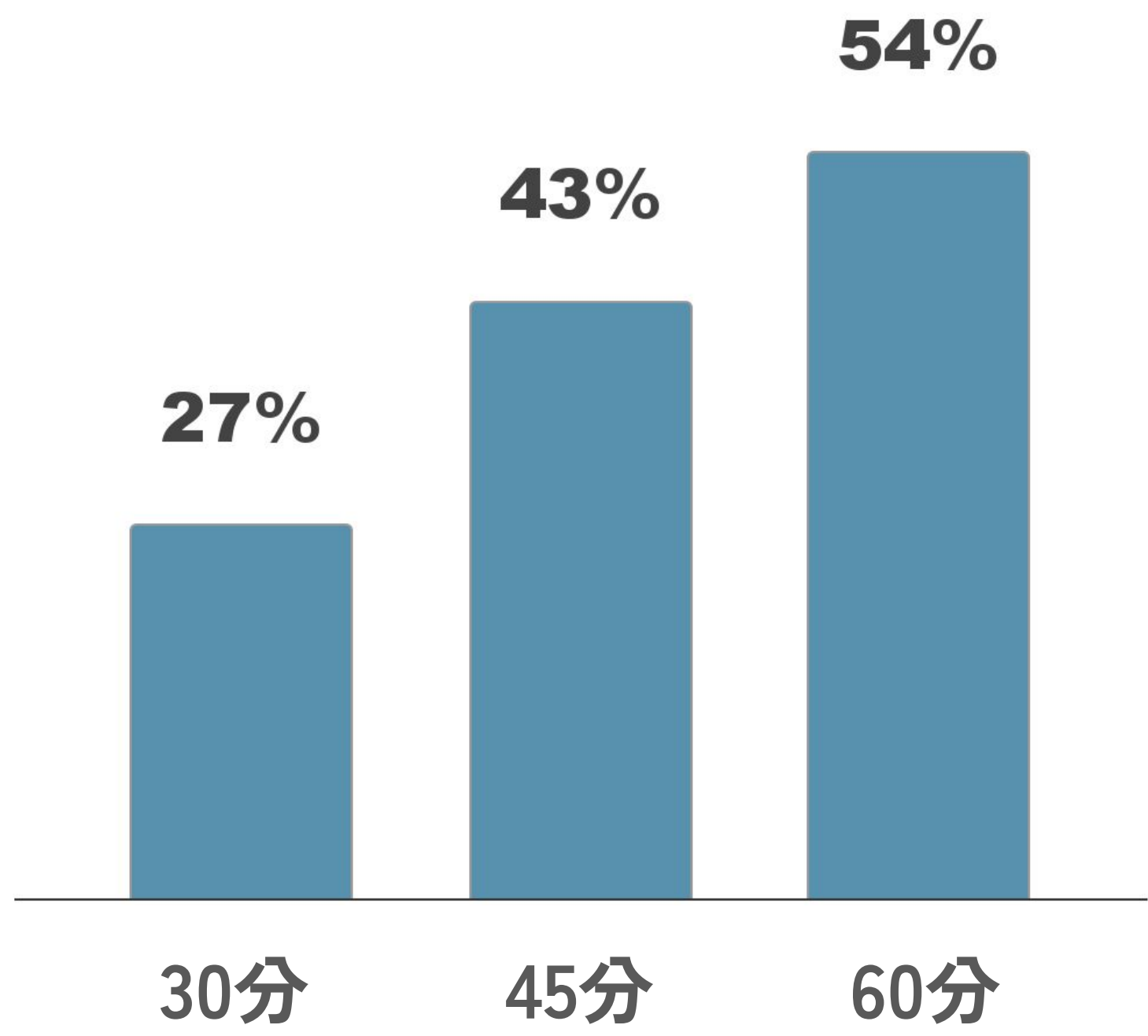
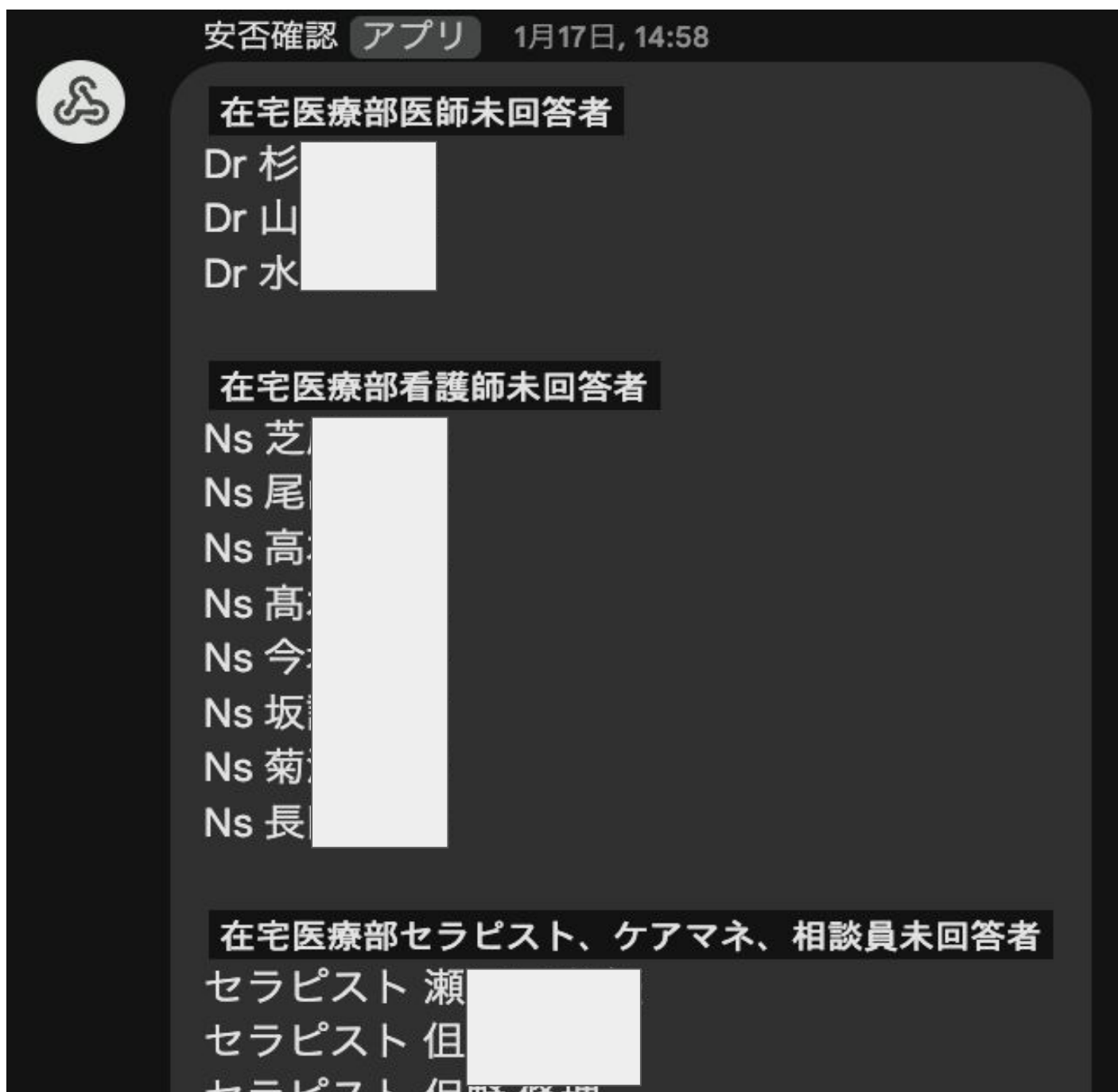


Fig.3

回答率



未回答者共有画面



考察と展望

訓練を通じて、休日中にフォームへの回答が遅れるケースや、夜間対応に課題があることが判明した。また、非常時の通信障害等も想定し、バックアップ手段の整備も検討中である。

BCPは作成して終わりではなく、訓練と検証を繰り返すことによって初めて機能する。今後はより実践的なシナリオでの訓練を重ね、平常時の備えと改善サイクルを継続していく。

また、本システムはGAS・Googleフォーム・スプレッドシートといった無償のツールで構築可能であり、他の中小規模医療機関や介護事業所への展開も可能である。今後は地域全体のBCP連携を視野に入れた活用を模索したい。

